

2019年12月1日
第13回マルチメディアデイジー図書講演会

デイジーユーザーからの 体験的報告

— 当事者と親の視点から —

小澤 彩果

立命館大学大学院 1 回生

小澤 理香

母親

1

立命館情報理工学研究科の小澤彩果と申します。

当事者の視点から

今日の話題

1. ディスレクシアについて
2. DAISY教科書を利用して良かった点
3. DAISY以外の必要な支援について
4. 残された課題
5. 私からのメッセージ

3

今日は、以下の5点について、説明させていただきます。

自己紹介

- 私は、**DAISY教科書第1期生**
- **DAISYとの出会いは、2007年11月ごろ、小学校5年生の冬**
- 「**DAISY教科書の有効性に関する実証研究**」(ATDO)のモニターとして活動
- その後、中学生までモニターを継続
- 高校は、**DAISY制作ソフトのモニター**

4

私はDAISY教科書の第1期生ユーザです。
DAISYには2007年11月ごろ、小学校5年生の冬に出会いました。
それから中学校まで河村宏先生のもと、ATDOのDAISYプロジェクトのモニターをしていました。
高校では、シナノケンシのPlexTalkProducerというDAISY制作ソフトの開発に向けた製品チェックモニターもしていました。

1) ディスレクシア について

5

私自身のディスレクシア体験を説明する前に、まず、ディスレクシアを疑似体験していただきたいと思います。

きのこが、こうやらかえりとはかあちゃんかさかい
きのこのおれおした。

「きょうはばちゃんがいられたのでわが、さき
でおまんじゅうき6コか、てきてさようだい。
そのついでにスーパーでニンジンとタマネギとじ
ゃが、もをかつてきてさようだい。きょうはみん
なのだ、いそきなカレーにするぞ。」
かいきのか、かえって、たしはし、くださいす
おせた。

良ければ、みなさんこのスライドを声に出して読んでみてください。

きのう、がっこうからかえると、おかあさんから
かいものをたのまれました。

「きょう、おばさんがこられるので、わがしやさんで
おまんじゅうを 9コかってきてちょうだい。

そのついでに、スーパーで、ニンジンとタマネギと
じゃがいもをかってきてちょうだい。きょうは、
みんなのだいすきなカレーにするわ。」

かいものからかえって、わたしはしゅくたいを
すませた。

このスライドは1つ前のスライドと同じ文章です。

このスライドの方が、はるかに分かりやすいと思いませんか。

しかし、すべてのディスレクシアの人たちが前のスライドのように見えている
わけではありません。

ディスレクシアといっても人それぞれ見え方は異なるからです。

私の場合の読み困難

ま よ う
ま の う

8

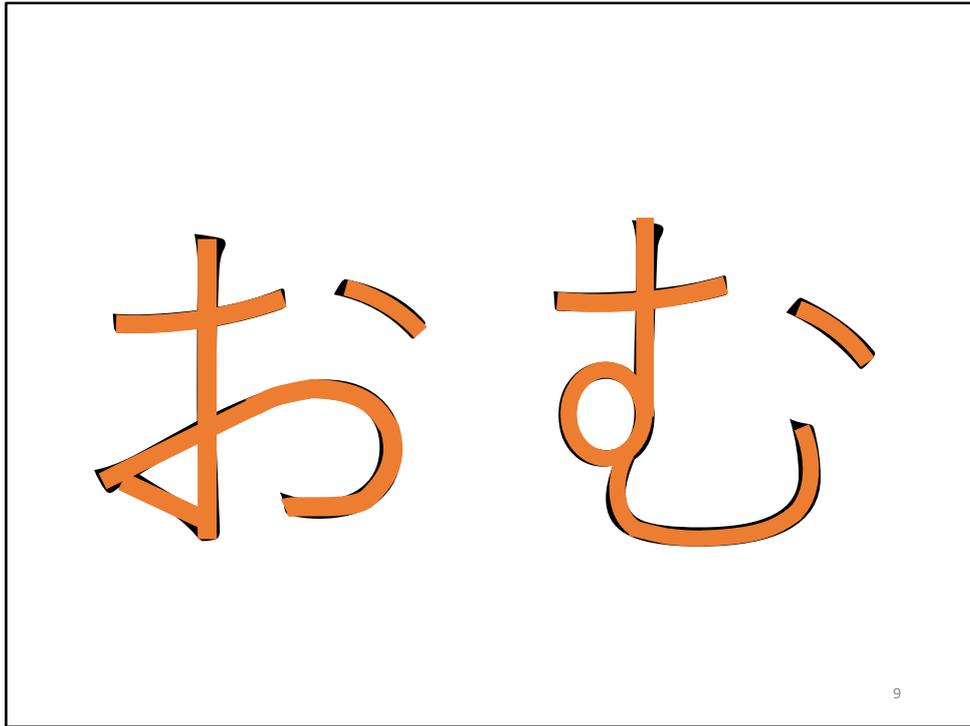
私の場合は、ひらがなを読むことがとても難しいです。

スライドで示すように

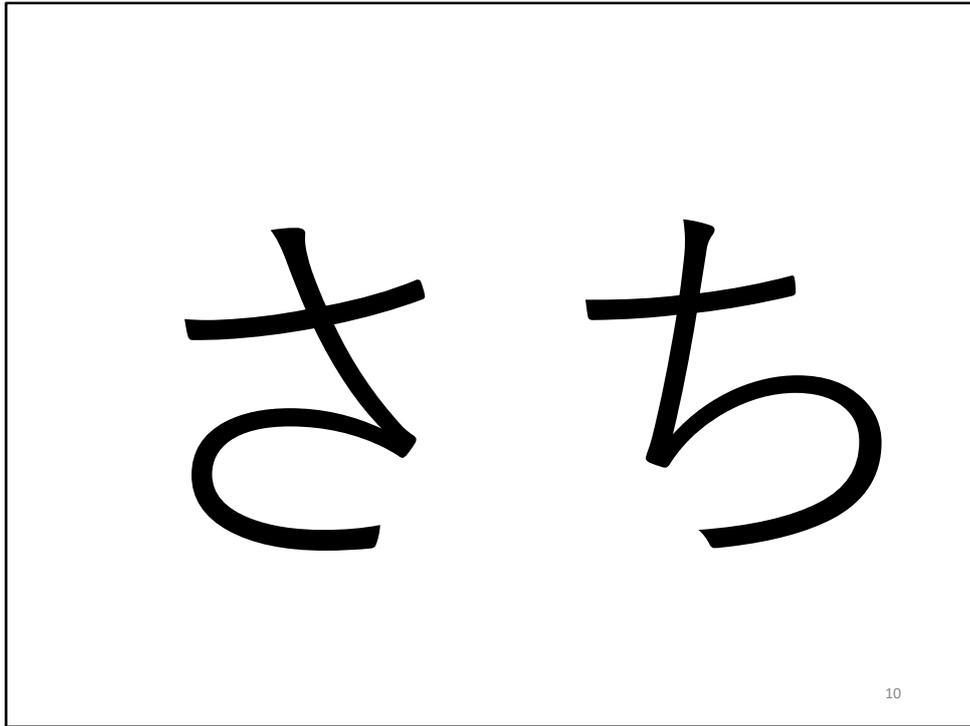
今日と昨日の「よ」と「の」のくるっと回る部分が似ているため、区別が難しくかったのです。

そのため、私は時々、この2つの言葉を読み間違えてしまいます。

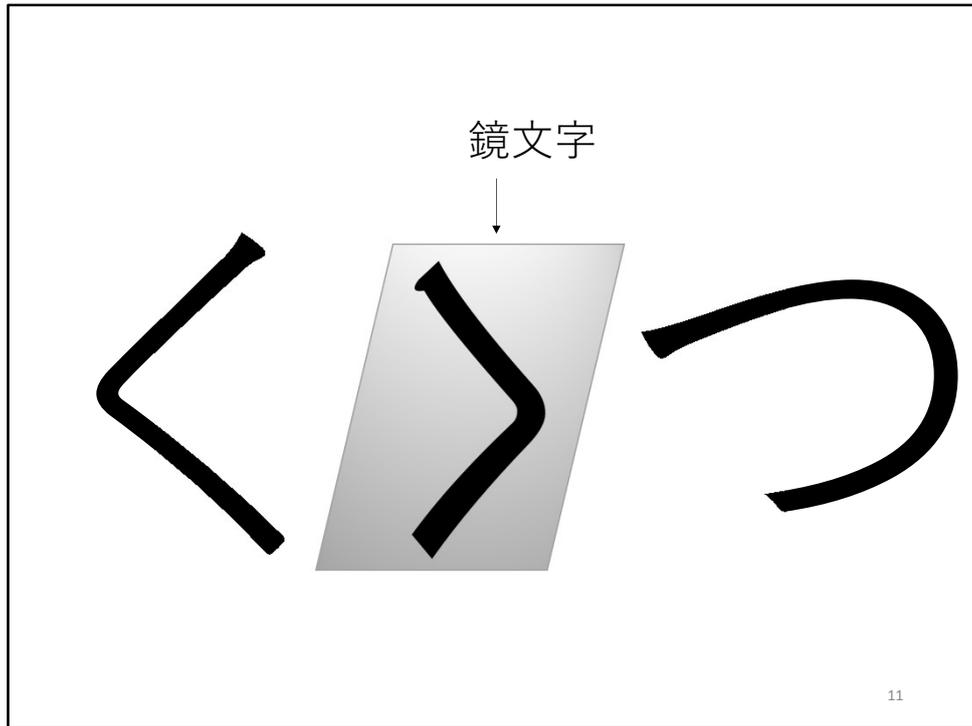
こうした読み間違いは、日常生活では深刻な影響を及ぼすことになりかねません。



それ以外も、いくつか似たような形に見えるひらがながあります。
このスライドの文字も私にとっては、判別するのは難しい事例です。



また、教科書体の活字では、「さ」と「ち」は鏡文字のように似ているため、区別するのが難しかったです。



左のひらがなの「く」が、鏡文字となると、中央の文字のように見えるので、右の文字の「つ」との違いを認識することは難しいです。文字は時々、回転したり、向きがひっくり返ったりすることで、皆さんには予想もつかないような文字と似たような形に見えてしまいます。一般の人にはなかなか理解できないことだと思います。

文字を長い間見ていると ピントが合わなくなる

あいうえおかきくけこさしすせそたちつてとな
にぬねのほひふへほやゆよ物をんあいうえおか
きくけこさしすせそたちつてとなにぬねのほひ
ふへほやゆよ物をんあいうえおかきくけこさし
すせそたちつてとなにぬねのほひふへほやゆよ
物をんあいうえおかきくけこさしすせそたちつ
てとなにぬねのほひふへほやゆよ物をんあいう
えおかきくけこさしすせそたちつてとなにぬね
のほひふへほやゆよ物をんあいうえおかきくけ
こさしすせそたちつてとなにぬねのほひふへほ
やゆよ物をんあいうえおかきくけこさしすせそ
たちつてとなにぬねのほひふへほやゆよ物をん

12

もちろん、私は短時間であれば、けっこう正しく読むことができます。しかし、長時間読むには、集中力を必要とするため本当に大変です。長い間読むと疲れてしまい、このスライドのように、焦点がずれて、文字がぼやけたように見えてしまいます。

絵本の頁を読むのに、小学校2年生の夏、10分 かかった！←両親が私の読み困難に気づく！

「たまごだけじゃ、できないわよ。」
「さあ、いきなさい。とちゅう、みちくさなんか、しないようにね。」
「わかつてるわよ。」
「おぎょうきよくして、おじいさまにあつたら、ちゃんごあいさつしてね。」
「わかつた。」
「ごあいさつのままだに、家の中を、きょうきよく見まわしたりしないのよ。」
「わかつた。」
わかつたさんは、かごに入れた、たまごを七こもって、そとに出ました。ワゴンにのりこみました。

「だけど……。なんだか、どこかで、きいたような……。」
「東は、こつちですよ。まつすぐいけば、森ですよ。」
「いいました。」
エンジンをかけて、アクセルをふんで、はっしゃして、ブーン、ブルルン、すすんでいくと、花ばたけがひろがりました。



「わかつたさんのクレープ」
作者：寺村輝夫、絵：永井郁子、発行所：あかね書房

13

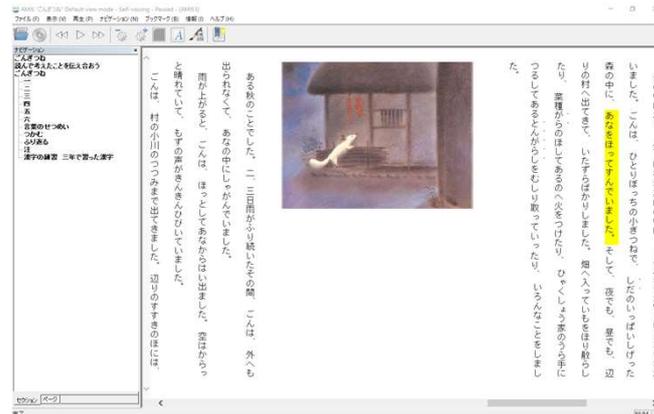
このような症状があると最初に気づいたのは、両親です。
それは、私が小学校2年生のときでした。
実を言うと、私は本がとても好きでした。図書室の雰囲気も私は好きでした。
だから、外目には、本を読める子と映っていたと思います。
小学校2年生の夏休みの初日に、私は、両親の前で絵本の音読を得意げに披露しました。
でも、このスライドのページを読むのに10分かかりました。
両親は私の遅い読み方にとってもショックを受けました。
もちろん、これ以前に学校でも、国語の音読中に、クラスの男の子から読めないことで、「やーい、読めないでやんの」とはやされることはありました。
そんな状況の中、自分はなぜ読めないのかと何となく考え込むこともありました。
それでも、自分自身の困難を、「自覚」していたとは言い難いです。
両親が早く気づき、ディスレクシア診断を早めに受けられたことで、なぜ、みんなと同じように読めないのかという私の疑問に対して、その理由をはっきりと知れたことは大きかったです。
自分自身の困難を自覚することで、その乗り越えに向けた積極的な姿勢が生まれるからです。
学校の先生には、こうして悩んでいる子どもたちが、多くいることをもっと理解してもらいたいと思います。

2) DAISY教科書を 利用してよかった点

14

私は、その後、多くの方に出会い、支援ツールに助けられて今に至っています。そこで、つぎに、その支援ツールのなかでも、大きな位置を占めるDAISY教科書について、それがどのように役立ったかを説明したいと思います。

NPOのNaDからサポートを受け、2007年12月
からDAISYを使い始めた
日本では、教科書バリアフリー法が制定後、
リハ協のウェブサイトからDAISY教科書のダ
ウンロードが始まった



15

2007年秋に河村宏先生に出会い、ATDOのモニターになることになり、NPO法人奈良デイジーの会（現NaD）の支援を受けて、その年の12月からDAISY教科書を使い始めました。

当時は、まだDAISY利用者も少なく、利用者の固有なニーズにそって、DAISY教科書が制作されていました。

DAISY再生ソフトも少なかったために、できるだけ速聴したかった私のために、DAISY制作の際に音声を速くしたものを提供してもらっていました。

2008年教科書バリアフリー法の制定後、しばらくたって、DAISY教科書が日本障害者リハビリテーション協会のウェブサイトから、無料でダウンロードできるようになりました。

この画像は、国語のDAISY教科書の例です。

6年生ともなると教科書は厚くなり、DAISYのサポートを受けずには、クラスメートに追いつくことは不可能でした。

DAISY教科書の使用法

小学校（5, 6年生）

国語でのみ利用

中学校（1～3年生）

国語、社会、理科、英語で利用

小学校時代は、毎日、読みの宿題でDAISY教科書を活用

中学生になると、上記の各科目でDAISY教科書は期末試験の準備に不可欠となる

16

小学校時代（5年生と6年生）は、国語でDAISY教科書を使いました。自宅でのみDAISY教科書を使用して、読みトレーニングをしました。

毎日、担任から国語の教科書を音読する宿題が出ていました。

私は両親と、DAISY教科書を3回聞けば、1回音読したことになると約束しました。

こうした幼年期の日々のトレーニングは、私の読み能力向上のためのとても良いトレーニングになりました。

その頃、私は遊びに行きたかったので、宿題をできるだけ早く終わらしたいと思いました。

そのため、私はDAISYテキストを通常の2倍の速さで聞きました。そうした速聴は、期せずして、私の能力アップに非常に役立ちました。

少し聞いてもらおうと思います。（DAISYを流す）

中学校時代（1年生から3年生まで）は、国語、社会、理科、英語の科目でDAISY教科書を使っていました。

DAISYの教科書が無ければ、期末試験を乗り越えることは難しかったと思います。ところで、私は学校では、これらのICTツールを使いませんでした。

当時、学校の先生たちがそのようなICT利用の状況には慣れていなかったからです。

私のワーキングメモリーと知覚推理能力は、そんな困難な状況を乗り越えるのを助けてくれました。

私にとってのDAISY教科書の利点

- DAISY教科書によって漢字の読み方が理解できた
←日本語で漢字はたくさんの読み方がある

例えば

今日は= こんにちは, きょうは

- 教科書の各単元の内容理解が早く簡単にできた
- DAISY教科書は、語彙力アップにも貢献した
- DAISYでは、文字と音とが対応しているため、その利用のたびに、脳を刺激し、読み能力がある程度改善されてきた

17

DAISY教科書を使い始めると、DAISYツールの有効性を実感させられました。DAISY教科書で漢字の読み方を自力で学ぶことができました。たとえば、「今日は」には、「こんにちは」と「きょうは」の2種類の読み方があり、これらをテキストの文脈によって切り替えといったことです。DAISY教科書を使うことで、テキストの内容を簡単かつ正確に理解できるようになりました。DAISYは私の語彙力も向上させました。DAISYでは音と文字が対応しているので、それが脳を刺激して、私の読み能力もある程度改善されたように感じています。

DAISY教科書の重要性

- DAISY教科書に接することで、もっと本を読みたいと思うようになった
 - 少しずつ自力で勉強できるようになった
 - 今までできなかったことにもチャレンジする積極性が育った
 - 次第に定期試験の結果も、良くなっていった
- ⇒ こうしたことが、自尊心の涵養に繋がった！

18

そして、なにより、DAISY教科書に接することで、もっと本を読みたいと思うようになりました。

そして、徐々に一人で勉強することができるようになりました。

また、今までできなかったことに挑戦するようになり、積極的にもなりました。

次第に、試験の結果も良くなっていきました。

こうした良い効果が、自尊心の涵養にも繋がりました。

3) DAISY以外の支援について

19

しかし、DAISYツールだけが助けになったわけではありません。
私のようなLD学生にはそれ以外の支援も不可欠です。

大阪医科大学LDセンター

- 小学校3年生から6年生まで隔週でLDセンターに通った
- 「弱点を無くすことが目標ではありません。強いところを伸ばして、弱点をカバーすることが私たちの目標です」→障害観の転換！



私は小学校3年生から6年生まで隔週で大阪医科大学のLDセンターに通いました。これはLDセンターのウェブサイトのトップページです。

このクジラの絵はLDセンターの壁に描かれています。

この絵を見ると、私は当時の記憶が蘇ります。それは甘く、そして、少しほろ苦い記憶です。

私の指導員は両親に最初に次のような言葉を言ったそうです。

「彼女の弱いところを無くすことが目標ではありません、彼女の強いところを伸ばして、弱いところをカバーすることが私たちの目標です。」

この言葉によって、それまでの障害観が変革されたと父は今でも言います。

そして、その言葉に寄って少しホッとさせられ、将来に光が見えたと感じたそうです。

4年間にわたって隔週でLDセンターに通っていたので、周りの子どもたちからはそういう子なんだという認識も少しされていました。

そのため、小学校時代は、クラス全体に対する説明は特にされませんでした。

身近な友達には、読めないことを話していたので、友人関係で悩むこともありませんでした。

中学校も地元の学校だったので、そうした小学校からの友人には、「またテスト最後まで解けなかった」などと率直に話をしていました。

LDセンターでのトレーニング

- 間違い探し（**注意力のトレーニング**）
- 文章と内容の誤りを修正する（**自己修正能力**）
←先生は足りない文字や余分な文字があることを助言
- 四コマ漫画にストーリーをつける
（**想像力、説明力**）
- **時間やスケジュールを管理**
- Wordソフトで書く（**自分で文章を書く力、
コンピューターリテラシー**）
- **辞書を引く力**

21

さて、LDセンターで4年間受けたトレーニングは次のようなものです。
間違い探し（注意力のトレーニング）
文章での誤記を修正する（自己修正能力）トレーニング
←先生は足りない文字や余分な文字がいくつあるかを助言してくれました。
四コマ漫画にストーリーをつける（想像力、説明力）トレーニング
時間やスケジュール管理能力のトレーニング
Wordソフトで文章を書く（自分で文章を書く力）トレーニング
辞書を引く力をつけるトレーニング
などです。

母親の読み支援

- 音読の宿題については、母親と一文ずつ、**交互に読み**し、1回読んだことにした
- 授業で当たった時、覚えていたので対応できた
- 漢字のルビふりは、ひらがなの方が読みにくかったので、やらなかった
- 母親が**読み聞かせ**もした（読書量を補うため）
- 大学生の**家庭教師**（週3回）は、3年生まで
- 4年生から中学3年生は、**塾**（週3回）
→この塾で、ノートの取り方が変わった！

22

特に、小学校時代は、母親からの支援も重要です。
母親からの支援としては、毎日、寝る前に読み聞かせなどを行ってくれました。
また、DAISY教科書に出会う前は、音読の宿題では、母親と1文ずつ交互に読んでもらっていました。
これにより、授業で当たった時は、覚えていて読むことができていました。
また、提供されないDAISY教科書で必要なものは、NaDや日本ライトハウスの支援を受けながら、母親が作ってくれました。
こうした家庭での配慮には、心から感謝しています。

サピエ図書館

中学生時代、サピエ図書館でハリーポッターという素晴らしい本に出会うことができた！

音声DAISY版しかなかったため、紙の本と音声DAISYを同時に使って自力で読みました



23

サピエ図書館も利用していました。

私は、中学生時代、公立学校であったためか、特別な配慮を受けることができませんでした。

そんな辛い状況から、私は「自分自身で困難を克服することが必要だ」と意識するようになりました。

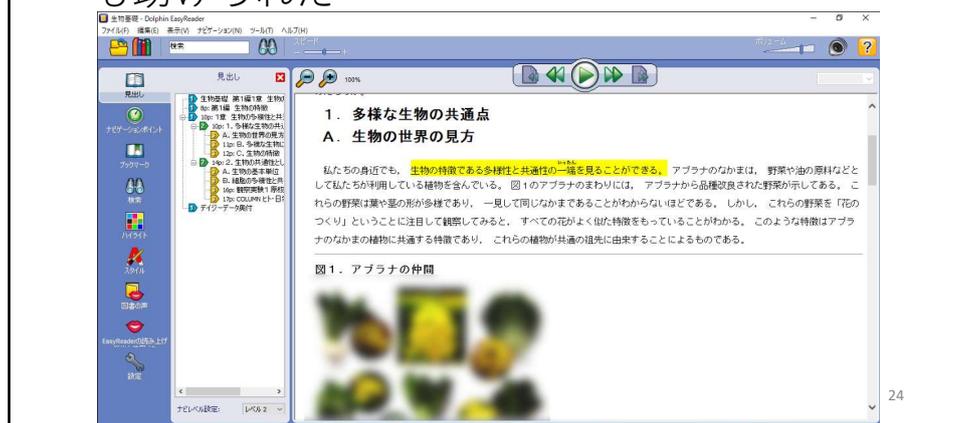
そんな時、私は素晴らしい小説、ハリーポッターシリーズと出会うことができました。

サピエ図書館には、当時、その本では音声DAISYしかありませんでしたが、私は紙本と音声DAISYの両方を使って、自力で読むことができました。

こんなデジタルツールの使い方によって、私はハリーポッターの世界をよりリアルに感じることができ、読書を心底から楽しむことができました。

日本ライトハウス情報文化センター

- 著作権法37条第3項に基づき、このセンターが高校のDAISY教科書を作ってくれた
→高校教科書は分厚く、この支援にはとても助けられた



高校では、ほとんどの教科書がまだ、DAISY教科書にされていません。そんなとき、河村宏先生が日本ライトハウス情報文化センターを紹介してくれました。

このセンターは、盲人図書館の一つです。

著作権法第37条第3項に基づき、日本ライトハウスは文部科学省からPDFデータを入手し、私のためにDAISY教科書を作成してくれました。

高校の教科書はとても厚いので、日本ライトハウスの支援には本当に助けられました。

大学生になってからの 自立的対応

★自分でDAISY化・音声化して読めるようになった

→「自立」できている

- DAISY化は以前より簡易化されている
(Plex Talk Producerなどの利用)
- WebやMicrosoft wordもコピー&ペストでDAISY化
- スクリーンリーダーの利用
= Mac, iPhoneなどiOS (Voice over)
= Android (TalkBack)
- スキャンされたものをOCRでテキスト化

25

情報系学部にいるということもあり、大学生になってからは、自立に向けての様々な「ツール」や技法を身に付けることができました。

このスライドに、具体例を挙げておきました。

大学図書館でも、デジタル化・音声化について対応はしているのですが、十分とは言えません。

研究室に配属されてからは、輪講で使用する本などは、スキャンしたものを全員が利用できるようにしてもらっています。

スキャンされた資料の方が、OCRによってテキスト化しやすいので、とてもありがたいです。

4) 残された課題

26

しかし、まだ問題が残っていると感じています。

DAISY教科書配布の問題点

- ディスレクシア児童生徒の全員がDAISY教科書を使用できているわけではない（媒体の認知と支援対象の把握の問題）
- 音楽や道徳、家庭科、美術といった科目はDAISY教科書が作成されていない
- 特に高校教科書は、まだ、ほとんどDAISY化されていない
- 教科書以外に副読本も教育では重要になるが、ほとんどDAISY化されていない

27

現在でも、ディスレクシア児童生徒の全員がDAISY教科書を使用できているわけではありません（媒体の認知と支援対象の把握の問題）。

音楽、道徳教育、家庭科、美術といった科目については、DAISY教科書は作成されていません。

特に高校レベルの教科書はほとんどDAISY化されていません。

副読本も教育では重要になりますが、ほとんどDAISY化されていないのが現状です。

こうした不備は、ディスレクシア児童生徒にとって大きな問題です。

また、友達との日常会話の中で、流行の本が話題に上がってくることもあります。これは、友達を作る上でとても大切なことだと思います。

実際に私は、小学生の時に、「若おかみは小学生！」という本が流行りました。クラスのほとんどの人が読んでいて、どのキャラが好きとか、今後のストーリーの話で持ちきりでした。

私もその中に入りたかったのですが、DAISYはなかったため、全23巻のうち1巻だけを自力で読むことが精一杯で結局話には入れませんでした。

できることなら、本が出るのと同時にDAISYで読めるのが一番良いと思います。

（注）2020年度現在は日本障害者リハビリテーション協会より小中学校の音楽、道徳教育、家庭科、美術のデイジー教科書も提供されている。

また、高校の教科書については、東大先端研の「AccessReading」にてテキストデータが提供され、それを合成音声で読む方法が活用されている。

定期試験と入学試験 における問題

- 小中学校の場合はテストで特別な配慮を受けることができなかった
- 高校では、試験時間は1.3倍、試験用紙は2倍拡大、別室受験という特別配慮があった
 - ← 試験はDAISY化されていない！
- 大学センター入試も含め、入学試験のDAISY化は実施されていない

28

後で母親が詳しくお話ししますが、定期試験の対応は、学校によって大変異なるものでした。

また、大学センター入試も含め、一般に入試でもまだDAISY化は実施されていません。これも日本のディスレクシア児童・生徒にとって、大きな問題であると思います。

大学の対応

- 入学前から、大学側に配慮を申し入れた
→しかし、情報系学部の動きは鈍く、
1回生の前期の試験配慮は不十分だった
→ようやく1回生後期から、試験配慮（PC読み上げ、用紙拡大、時間延長、別室）が実施された
- 障害学生支援室スタッフの当初の印象
→大学には、そもそも、ディスレクシア学生はいないと思っているように感じられた
- 図書館による支援 = 図書・配布資料のデジタル化
→しかし、十分とは言えない

29

さて、DAISY支援を受けてきた私は、なんとか、大学生になることができました。大学での支援は、当初は十分ではありませんでした。その後配慮はあったものの、大学の定期テストでは、DAISYは使っていません。

大学に、障害学生支援室という制度が整っていたのですが、当時は、ディスレクシア学生は入学してこないという前提に立っていたように思われました。

5) 私からのメッセージ

30

まとめ

- 私の場合、幸運なことにDAISYや他の支援の絶妙な組み合わせに支えられ、大学院にまで進学することができた
- 実感的にDAISYの有効性を理解できた最初のDAISY世代といえるかもしれない
- DAISYを使うことで、「勉強が楽しい、もっと学びたい。」と思ってくれる人が増えることを望む
- 障害が障害と感ぜない世の中になるように貢献したい

31

私の場合、幸運なことにDAISYや他の要素の絶妙な組み合わせに支えられ、大学院にまで進学することができました。
実感的にDAISYの有効性を理解できた最初のDAISY世代といえるかもしれませんが。DAISYを使うことで、勉強が楽しい、もっと学びたいと思ってくれる人が増えれば良いと思います。
近眼や遠視が障害と捉えられていないように、障害と今呼ばれていることが障害と感ぜなくなり、自信がある分野でそれぞれが活躍できる世の中になればいいと思います。
そのために、出版社やボランティア、政府、学校など、たくさんの方が協力する必要があります。
私もこのような世界を目指して、少しでも貢献したいです。

親の視点から

次に、保護者の視点から（特に、学校とのかかわり、試験に関することを中心に）10分程度、お話ししたいと思います。

診断・支援

小学校2年生の時に診断を受けた。

その後、大阪医科大学LDセンター、NaD（旧奈良デイジーの会）、ATDO（支援技術開発機構）、日本障害者リハビリテーション協会、日本ライトハウス・・・。
様々な方々から支援を受けられた。



「診断」や「支援」をネガティブ・レッテルとして見ないことが大事！

まず、本人からもあったように、小学校2年生の時にディスレクシア診断を受けましたが、早く診断を受けられたことで、その後の支援も様々なことができることができ、本当に良かったと思っています。

その後、大阪医科大学LDセンター、NaD（旧奈良デイジーの会）、ATDO（支援技術開発機構）、日本障害者リハビリテーション協会、日本ライトハウスほか、様々な方々に支援を受けてきましたが、本当に感謝しています。

不思議に思うのですが、「診断」や「支援」をレッテルとして、気にかける人もいます。

私たちの場合、支援ネットワークとも呼ぶべき、多くの方々から支援を受けることで、本人が学習に対しても、また、ほかの物事に対しても、積極的にかかわっていけるようになれました。

保護者が、診断や支援をネガティブなレッテルとして見ないこと、そうした先入観を持たないことは、とても大事だと思います。

DAISYの利用について

LDセンターのコメントに目からウロコ！
「できるところを伸ばして、できない
ことをカバーする」

DAISYの使用については、「聞くだけになってよくない」という意見もあるが、こうした発想は間違っている。

- 利用できるツールは活用し、本人が楽に勉強ができるようにできればよい。

DAISYのメリットは大きかった！

もう1つ、保護者の視点として気が付くのが、ツールの利用についてです。娘の場合、LDセンターの専門家のコメントは、「できるところを伸ばして、できないことをカバーする」でした。

センターというところは、できないことをできるようにさせる所と思っていた私たちには、「目からうろこ」でした。

今は、娘の時よりももっと利用しやすいデジタルツールが開発されてきていると思います。

利用できるツールは利用し、本人が楽に（できるだけ苦労がなく）楽しく勉強ができるようにできればよいと思います。

デイジーの利用については、教科書を読まずに、聞くだけになって良くないという意見もありますが、娘の場合は、聞くだけでも、語彙の獲得や文章の理解の向上など、

学習に関して効果がありました。

さらに、本人も話したように、自尊心の涵養にも繋がったと思います。

デイジーを積極的に活用できて良かったです。

学校・先生とのかかわり1

■ 小学校・中学校

担任の変更ごとに、面談し説明をした。

先生と親との連携、これがとても大切。

■ 高校

入学前に、本人と親で学校側との面談。その際、大学入試での配慮を視野に入れて、定期試験での配慮を提案された。それまでになかった視点で、学校側スタッフの認識によってこれだけ違うのかと驚いた。

親の役割として、特に大事だと思うのは、学校との橋渡しです。小学2年のときの面談で、担任の先生から最近元気がない様子ですとのお話がありました。先生は、その原因が、読みが困難でクラスの仲間からかわれたりして、クラスに溶け込めなかったためとは全く気づかれなかったようでした。読みが困難であることを保護者から先生に伝え、理解していただきました。これについては、その時先生にお渡ししたお手紙も、資料として、配布しています。

その後も、小学校や中学校では、学年が変わるごとに、担任の先生と面談して、丁寧に事情を説明してきました。先生と親とがしっかり連携して、本人を支援していくことが大事だと思います。

高校に進学するときには、入学の前に、事情を説明し、本人と親、先生方との面談を行いました。学校側は学年主任、保健の先生が対応してくださいました。その際、大学入試での配慮を視野に入れて、高校の定期試験でも、配慮を行うことを学校側から提案されました。

福祉に理解のある高校で本当にありがたかったし、中学までにはなかった視点で、学校によってこれだけ違うのかと驚きました。

学校・先生とのかかわり2

- 高校のクラスメートへの対応

父親がデイジーを活用した外国人児童の支援の研究をしていたが、学年主任の配慮で娘のクラスに入り、DAISYワークショップを実施できた。

クラスメイトが、「ディスレクシア」を理解してくれたことは大きかった。

友達の中には、将来の職業選択にも影響を与えたとのこと。

高校では担任の先生から、クラスメートに別室受験についての説明をどうしましょうか、という相談を受けました。

父親がデイジーを活用した外国人児童の支援の研究をしていたため、クラスでワークショップをさせてもらい、その中で、ディスレクシアについても説明しました。

そのワークショップが心に残って、将来、支援にかかわる仕事がしたいというお友達も出てきたそうです。

ディスレクシアについて知ったことで、関心をもつ人間も増えてくれたそうです。

学校と保護者の連携プレーの成功事例と言って良いかと思います。

学校・先生とのかかわり3

■ 大学

入学前に大学側と面談し、配慮を依頼。対応が十分ではなかったため、夏休みに再度面談し、依頼内容を再確認する。定期試験の配慮、授業の課題のテキストデータを受け取るなどの配慮を受けることができた。

保護者があきらめずに、学校側に申し入れて、支援の体制を整えることも大切

大学は父親の勤め先であったこともあり、デジタル支援に熱心であること、障害学習支援室があることを聞いており、支援については期待をしていました。

入学前に、入試センターや障害学習支援室に連絡を取り、手続きを踏んでいました。

入学直前には、本人、保護者と大学側（カウンセラーの方）との面談があり、支援についてもお話しし、理解していただけたものとばかり思っていました。

ところが、1学年の前期は満足いく支援や配慮は受けることができませんでした。

実際に配慮にかかわる決定は、学部主導で行われるとのことでした。

夏休み中に2度にわたって、学部関係者と面談し、やっと、合理的配慮を認めてもらうことができました。

大学としては、ディスレクシアの学生に対する支援は初めてとのことでした。

これが前例となり、今後、入学してくる学生さんにはしっかり対応していただければと思います。

保護者が丁寧に学校と連絡を取り合うことで、支援体制が整っていくこと

もあるかと思ひます。
あきらめずに、チャレンジしてもらえたら、と思ひます。

定期試験・入学試験の対応1

高校入試までは、特段の配慮はなかった。

高校では定期試験で配慮があった。

- ▶ 試験の点数が上がり、成績も上がった。
- ▶ 推薦入試合格につながった。

大学入試（センター試験）では、申請により、問題の拡大・時間延長・別室受験は受けられた。しかし、**DAISY使用の希望は受け入れられなかった！**

学校の試験での配慮は、その後の進学にもかかわる大きな問題です。

高校入試までは、特段の配慮はありませんでした。

高校では、先にお話したように、大学入試での配慮を視野に入れた配慮が定期試験でありました。

この配慮もあって、試験の点数が上がり、成績も上がったため、推薦入試につながったと思います。

大学は推薦入試で進学しましたが、大学センター試験も受けました。

配慮の申請の際に、デイジーの使用を希望しましたが、担当の方は、「デイジーってなんですか？」という対応で、結局、デイジーを使用することはできませんでした。

センター入試におけるデイジー導入は、今後も重要な課題になっていくと思います。

定期試験・入学試験の対応2

大学の定期試験は、高校と同様の配慮のほかに、**パソコンによる問題文の読み上げが加わった**（DAISYではないが）。

➤ 成績の向上につながり、大学院進学（普段の成績を重視）につながった。

大学・大学院に関しては、普段の成績が重視される入試方式で進学ができた。

定期試験の配慮は、重要！

併せて、入試でもICT活用を進めるべき！

大学の定期試験では、1回生の後期から配慮がされるようになりました。これも成績の向上につながったと思いますし、大学院の進学にもつながったと思います。

そもそもの入試においても、ICTの活用がもっと進み、少しでも受験しやすい環境が整ってほしいと思います。

一方、娘の場合は、大学・大学院に関しては、ペーパーテストだけではない方法での進学ができました。そのような特別入試も様々な形で行われています。しかし、それができたのも、日常の配慮が支えになっていたと思います。

「障害者差別解消法」

「障害者の権利に関する条約」(2007年批准)

「障害者差別解消法」(2016年4月に施行)

合理的配慮を可能な限り提供することが、行政・学校・企業などの事業者求められる。

◆ 学習障害に対する合理的配慮の例

(内閣府HP)

書籍やノートなどを用いた読み書きに困難があるときには、タブレットなどの補助具を用いることができるようにする

ところで、このような法律があることを皆さんはご存じでしょうか。

「障害者差別解消法」、正式名称は「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」です。

2007年に日本が批准した「障害者の権利に関する条約」により、整備された国内法で、2016年4月に施行されたこの法律により、合理的配慮を可能な限り提供することが事業者求められるようになりました。

内閣府のHPにも合理的配慮の例として、タブレット端末などの利用が挙げられています。

合理的配慮について

障害のある方々の人権が、障害のない方々と同じように保障されるとともに、教育や就業、その他社会生活において平等に参加できるよう、それぞれの障害特性や困りごとに合わせておこなわれる配慮のこと。

本人も親も合理的配慮を学校に求めることができる。

合理的配慮とは、障害のある方々の人権が、障害のない方々と同じように保障されるとともに、教育や就業、その他社会生活において平等に参加できるよう、それぞれの障害特性や困りごとに合わせておこなわれる配慮のことを言います。

娘が高校を卒業するまでには差別解消法はありませんでしたが、今は、この法律があります。

本人も保護者も、権利として、合理的配慮を学校に求めることができるのです。

娘の大学には、いちおう、障害学生受け入れの制度や支援組織は作られています。

しかし、受け入れ学部の反応は、実際にはにぶく、学部と交渉して、特別配慮を実現するときに、この法的制度は力になりました。

この法律は保護者側にとって、支えとなると思います。

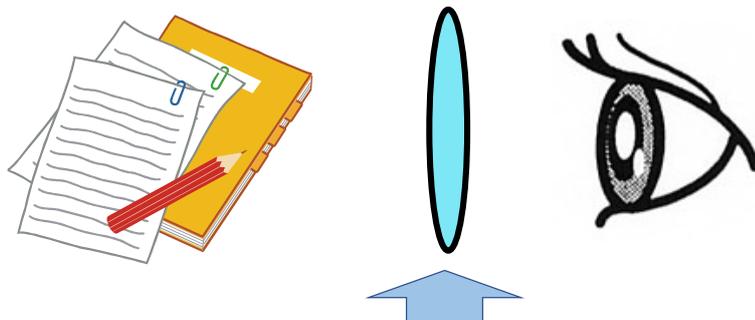
一方で、読み困難が発見される小学校低中学年の保護者の方には、「障害」という言葉が引っ掛かり、配慮の要求に踏み切れない方がいるのではないかと心配されます。

「障害」をレッテルとして見ないで、困りごとに早く気づいて、支援ができればとよいと思います。

私の場合は、様々な方々や資源との出会いがあって、子どもの幸せにつながっていったと思っています。

本人もあまり気にしない性格だったのもよかったのかもしれませんが。

眼鏡をかければ、
見れる、読める、学べる!



DAISY + 情報機器インフラ + 環境（親の姿勢、先生の姿勢と技術、支援者）
+ 社会制度や社会政策

近眼や遠視の場合はめがねをかけます。めがねをかけて、よく見ることができます。

ディスレクシアの人にとって、めがねはデイジー、情報機器インフラ、教育環境（親の姿勢、教師の姿勢と技術、支援者）と社会政策を組み合わせた生活環境です。

ディスレクシアの方へのこうした環境を改善することができれば、視覚障害者、高齢者、上肢障害などのあらゆる種類の障害を持った方々が必要な情報にアクセスできるようになります。

読書の障壁を、そうした努力で乗り越え、誰もが本を楽しめる社会を実現していくことを目指したいと思います。